

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成23年6月29日
【事業年度】	第24期（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）
【会社名】	株式会社セリア
【英訳名】	Seria Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河合 宏光
【本店の所在の場所】	岐阜県大垣市外淵2丁目38番地
【電話番号】	0584 - 89 - 8858（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役経営企画室長 河合 映治
【最寄りの連絡場所】	岐阜県大垣市外淵2丁目38番地
【電話番号】	0584 - 89 - 8858（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役経営企画室長 河合 映治
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次 決算年月	第20期 平成19年3月	第21期 平成20年3月	第22期 平成21年3月	第23期 平成22年3月	第24期 平成23年3月
売上高 (百万円)	59,347	63,224	68,394	76,244	83,389
経常利益 (百万円)	3,029	2,362	1,579	3,308	5,075
当期純利益 (百万円)	1,465	1,174	784	1,494	2,318
持分法を適用した場合の投資損益 (百万円)					
資本金 (百万円)	1,278	1,278	1,278	1,278	1,278
発行済株式総数 (株)	75,840	75,840	75,840	75,840	75,840
純資産額 (百万円)	8,001	8,979	9,562	10,887	13,013
総資産額 (百万円)	25,164	24,028	27,637	32,143	36,302
1株当たり純資産額 (円)	105,502.98	118,399.36	126,092.78	143,560.14	171,595.16
1株当たり配当額 (円)	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500
(内、1株当たり中間配当額) (円)	()	()	()	()	()
1株当たり当期純利益金額 (円)	19,324.08	15,484.28	10,345.93	19,711.75	30,576.48
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	31.8	37.4	34.6	33.9	35.8
自己資本利益率 (%)	19.9	13.8	8.5	14.6	19.4
株価収益率 (倍)	12.3	4.5	6.4	6.1	6.9
配当性向 (%)	12.9	16.1	24.2	12.7	8.2
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	4,038	1,485	2,479	4,866	6,220
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,140	2,099	2,445	1,649	1,688
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	285	235	352	630	1,615
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	6,062	2,237	1,912	4,494	7,409
従業員数 (外、臨時従業員年間平均雇用人員) (人)	260 (3,846)	280 (4,366)	294 (4,868)	332 (5,294)	344 (5,512)

- (注) 1 連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 持分法を適用した場合の投資損益につきましては、関連会社がないため、記載を省略しております。
- 4 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【沿革】

年月	事項
昭和62年10月	岐阜県大垣市に株式会社山洋エージェンシー（資本金100万円）を設立、100円均一商品の販売員への委託方式による移動販売を開始
平成元年5月	岐阜県大垣市本今5丁目74番地に本社を新築し、移転
平成元年5月	初のフランチャイズ契約を、株式会社かわせ（岐阜県大垣市）と締結
平成元年6月	長野県東筑摩郡朝日村に松本営業所を開設
平成2年11月	長野県塩尻市に松本営業所及び物流センターを新築し、移転
平成3年10月	千葉県松戸市に東京営業所を開設
平成4年3月	新潟県北蒲原郡聖籠町に新潟営業所を開設
平成4年9月	静岡県袋井市豊沢に静岡営業所を開設
平成5年9月	大阪府堺市に大阪営業所を開設
平成6年2月	常設店舗1号店として、「100円ショップ長崎屋岐阜店」（岐阜県岐阜市）をオープン
平成7年10月	静岡県袋井市小山に静岡営業所及び物流センターを新築し、移転
平成8年3月	鹿児島県始良郡加治木町に鹿児島営業所を開設
平成8年8月	ロードサイド出店1号店として、「100円ショップ上越高田店」（新潟県上越市）をオープン
平成9年10月	「ショップ・ワン・オー・オー」1号店として、「ショップ・ワン・オー・オー十日町シルクモール店」（新潟県十日町市）をオープン
平成9年10月	福岡県福岡市に福岡営業所を開設
平成10年3月	商業集積施設出店1号店として、「ショップ・ワン・オー・オー稲沢ハーモニー店」（愛知県稲沢市）をオープン
平成10年7月	岐阜県大垣市外渕2丁目38番地に本社及び物流センターを新築し、移転
平成12年4月	新概念店舗1号店として、「生活良品館大垣店」（岐阜県大垣市）をオープン
平成13年4月	本社、松本及び静岡の物流センターを廃止し、物流業務を外部委託
平成13年8月	岐阜県大垣市の本社内に東海北陸営業所を開設、鹿児島営業所を福岡営業所に統合、松本営業所を長野営業所に変更
平成13年10月	海外FC1号店として「彩遊館」（台湾）をオープン
平成14年5月	秋田県能代市に秋田出張所、北海道札幌市に北海道連絡所を開設、福岡営業所を福岡出張所に変更
平成15年2月	海外貿易を行う目的で中華人民共和国上海市に賽利亜（上海）国際貿易有限公司（出資金28万米ドル）を設立
平成15年4月	商号を株式会社セリアに変更
平成15年9月	日本証券業協会に株式を店頭登録
平成16年7月	秋田出張所を廃止し、岩手県盛岡市に東北営業所を開設
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場
平成18年4月	北海道連絡所を北海道営業所に、福岡出張所を福岡営業所に変更
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所が合併したことに伴い、大阪証券取引所「JASDAQ（現 大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)）」に上場

3【事業の内容】

当社は、「100円ショップ」の小売業及び卸売業を主な内容として、事業活動を展開しております。なお、当社は100円ショップ事業の単一セグメントであります。

- ・小売業は、商品（消費財）を消費者に直営店舗にて販売する事業であります。
 - ・卸売業は、商品（消費財）をフランチャイジー、大口顧客に卸販売する事業であります。
- フランチャイジー、大口顧客はFC店舗または自社店舗にて消費者に販売しております。
- また、海外FC店向けに輸出または国内代理店への卸販売も行っております。

なお、当社商品発注に係るシステムの利用に際し基本契約を締結している先をFC店舗と総称しております。ただし、FC店舗との契約においては、商標の利用は任意であり、ロイヤリティの徴求はしておりません。

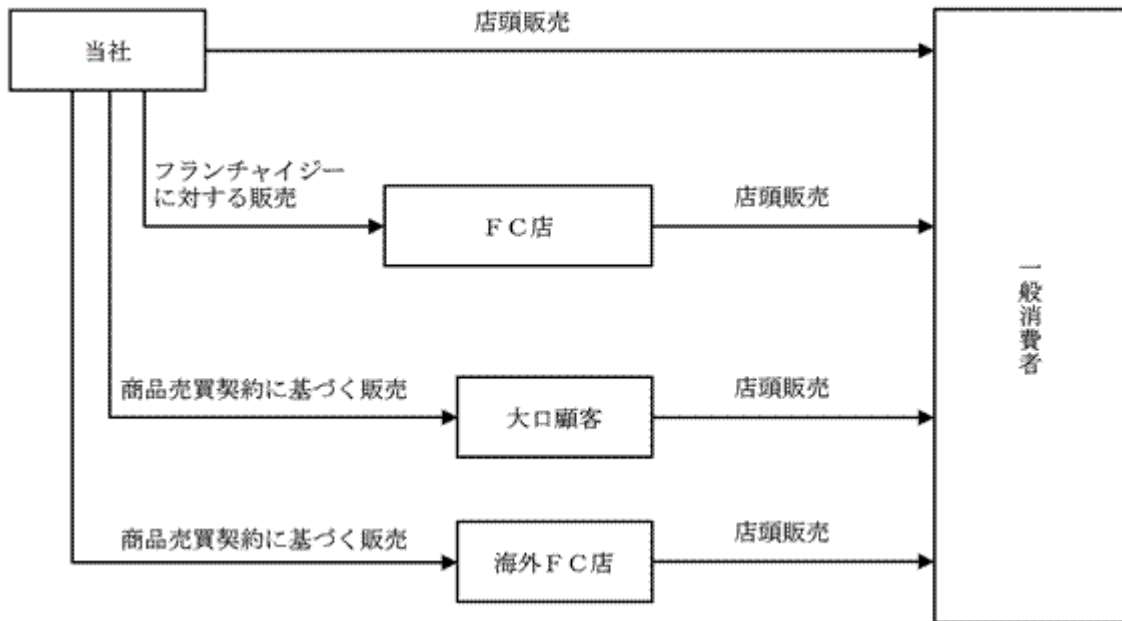
当社の取扱商品は、雑貨及び菓子食品に区分され、さらに雑貨は利用シーンにより35の大分類にカテゴリー分けされております。

主な取扱品は、以下のとおりであります。

区分	主な取扱品
雑貨	キッチン用品、食器、洗濯用品、バス用品、サニタリー、洗剤、コスメティック、アクセサリ小物、裁縫用品、文具、おもちゃ、キャラクター商品、ガーデニング用品、健康用品、衛生用品、衣類、清掃用品、収納用品、工具、傘・雨具、電気製品、電池、ペット用品、インテリア用品、ハンドクラフト用品、アウトドア用品、シーズン商品（注）
菓子食品	インスタント食品、調味料、瓶・缶詰、麺類、米類、製菓材料、飲料、コーヒー・紅茶・茶類、パン類、米菓、クッキー・ビスケット、スナック菓子、飴・キャンディー、チョコレート、ガム、ゼリー、珍味、玩具菓子、シーズン商品（注）

（注）正月、バレンタイン、クリスマス、盛夏などの短期販売の季節商品であります。

事業の系統図は、次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

記載すべき関係会社はありません。

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

(平成23年3月31日現在)

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
344 (5,512)	36.3	6.4	4,478

- (注) 1 従業員数は、就業人員(当社からの出向は除く)であります。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3 従業員数欄の()は、外書で臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
4 当社は100円ショップ事業の単一セグメントであります。

(2) 労働組合の状況

当社には、労働組合はありませんが、労使関係は円滑な関係にあり、特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当事業年度のわが国経済は、輸出は横ばい圏内となり、生産は減少するなど、改善の動きに一服感が見られるなか、本年3月に発生した東日本大震災の影響により、生産面を中心に下押し圧力の強い状態にあります。先行きについては、供給面での制約が徐々に和らぎ、生産活動が回復していくにつれ、資本ストックの復元に向けた需要の顕在化などから、緩やかな回復経路に復していくと考えられますが、福島原発の動向や財政課題など不確実性の高い事柄が多く、予断を許さない状況にあります。

小売業界におきましては、個人消費は、耐久消費財中心に各種対策の影響が強く出るなかで、徐々に持ち直しの動きが見られましたが、震災の影響により、一部商品の需要が高まる一方、マインドの悪化による消費抑制傾向が見られるなど、先行きについても、極めて見通しが立てづらい状況にあります。

このような状況のなか当社は、「お客様の需要にさらに近づく」をテーマとして、店舗ごとの最適品揃え、最適在庫数を追求するオペレーションの構築に注力するとともに、POSデータ分析による確実性の高い新商品の導入、欠品対策、持続的な成長の背骨となるブランディングを着実に進めております。

出退店につきましては、採算性を精査しつつ前向きに進め、当事業年度において、出店が直営店81店舗、F C店1店舗、退店が直営店22店舗、F C店7店舗と順調に進捗しました。期末の店舗数は、直営店939店、F C店113店の合計1,052店となりました。

仕入原価につきましては、国際商品市況が緩やかな上昇傾向にあるなか、比較的採算の良い雑貨の販売が順調であるため改善傾向が続き、売上原価率は59.0%と前期比1.2ポイント低下しました。

直営既存店売上高につきましては、前年の新型インフルエンザによる衛生商品等の特需の反動、猛暑の影響と見られる菓子販売の落ち込みがありましたが、パレンタイン関連商品が好調に推移するなど後半盛り返し、前期比100.3%となりました。

その結果、当事業年度の売上高は833億89百万円（前期比9.4%増）、経常利益は50億75百万円（前期比53.4%増）、当期純利益は23億18百万円（前期比55.1%増）となりました。

なお、東日本大震災による商品・設備等の損失額として、1億84百万円を特別損失に計上しております。部門別売上高の状況は次のとおりであります。

区分	第23期 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)		第24期 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		前期比(%)
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	
直営店	71,131	93.3	78,616	94.3	110.5
F C店	3,943	5.2	3,648	4.4	92.5
その他	1,169	1.5	1,124	1.3	96.1
合計	76,244	100.0	83,389	100.0	109.4

(2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度末の現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べ29億14百万円増加し、74億9百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度の営業活動によるキャッシュ・フローは、62億20百万円（前期比13億53百万円の収入増加）のプラスとなりました。これは、税引前当期純利益の計上43億7百万円、減価償却費20億34百万円などの収入に対し、預け金の増加2億27百万円、法人税等の支払19億89百万円などにより資金が減少したためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度の投資活動によるキャッシュ・フローは、16億88百万円（前期比39百万円の支出増加）のマイナスとなりました。これは、新規出店に係る有形固定資産の取得等12億98百万円及び差入保証金の差入6億3百万円などにより資金が減少したためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度の財務活動によるキャッシュ・フローは、16億15百万円（前期比9億85百万円の支出増加）のマイナスとなりました。これは、長期借入れによる収入22億円による資金増加に対し、長期借入金の返済28億19百万円及びリース債務の返済8億6百万円などにより資金が減少したためであります。

2【仕入及び販売の状況】

(1) 仕入実績

当事業年度における仕入実績を商品区分別に示すと、次のとおりであります。

商品区分	仕入高(百万円)	前期比(%)
雑貨	42,452	109.6
菓子食品	6,343	88.0
その他	28	804.2
合計	48,823	106.2

- (注) 1 金額は、仕入価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 販売実績

当事業年度における販売実績を商品区分別、事業部門別及び地域別に示すと、次のとおりであります。

a 商品区分別売上高

商品区分	売上高(百万円)	前期比(%)
雑貨	75,045	112.2
菓子食品	8,176	89.1
その他	167	79.9
合計	83,389	109.4

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3 その他には、店舗に設置した自動販売機等の手数料収入等が含まれております。

b 事業部門別売上高

事業部門	売上高(百万円)	前期比(%)
直営売上高	78,616	110.5
F C売上高	3,648	92.5
卸売等売上高	396	86.0
海外売上高	727	102.7
合計	83,389	109.4

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

c 地域別売上高（直営売上高）

地域別	売上高合計		店舗異動状況（店舗数）		
	金額（百万円）	前期比（％）	期末店舗数	出店数	退店数
北海道東北地方	9,922	103.2	118	10	5
関東甲信越地方	22,075	110.4	259	17	4
東海北陸地方	23,713	104.5	287	18	10
関西地方	11,647	126.0	116	17	0
中国四国地方	3,844	118.3	43	8	2
九州沖縄地方	7,413	117.3	116	11	1
合計	78,616	110.5	939	81	22

（注）1 金額は、販売価格によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 地域別の区分は、次のとおりであります。

北海道東北地方・・・北海道、青森県、秋田県、岩手県、宮城県、山形県、福島県

関東甲信越地方・・・茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、新潟県、長野県

東海北陸地方・・・岐阜県、愛知県、三重県、静岡県、富山県、石川県、福井県

関西地方・・・滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、兵庫県

中国四国地方・・・岡山県、広島県、山口県、鳥取県、島根県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州沖縄地方・・・福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

d 地域別売上高（FC売上高）

地域別	売上高合計		店舗異動状況（店舗数）		
	金額（百万円）	前期比（％）	期末店舗数	出店数	退店数
北海道東北地方	601	96.6	16	0	0
関東甲信越地方	278	82.8	16	0	2
東海北陸地方	890	84.3	27	0	4
関西地方	202	91.9	9	0	0
中国四国地方	850	94.0	25	0	1
九州沖縄地方	824	102.7	20	1	0
合計	3,648	92.5	113	1	7

（注）1 金額は、販売価格によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 地域別の区分は、「c 地域別売上高（直営売上高）」と同じであります。

3【対処すべき課題】

当社は、競争が激化している小売業界にあって、100円ショップという特性から価格競争ではなく、小売の基本的要件である「品質」「品揃え」の改善、向上に経営資源を集中した結果、お客様から価格を含めた信頼とご支持をいただき、今日まで順調に成長を続けられたものと考えております。

一方、均一価格を維持しつつ収益を拡大していくためには、商品市況の変動あるいは商圈の変化等さまざまなリスクに適切に対処しながら、魅力ある商品の開発、買い心地の良いお店づくりにまい進するとともに、業務の効率化を進めていくことが重要と認識しております。

当社は、中期経営計画において具体的に定めた3つの経営目標に基づく5つの機能別戦略に従い、これら課題に全社を挙げて取り組み、より一層の企業価値の向上を図ってまいります。

4【事業等のリスク】

以下の文中における将来に関する事項は、当事業年度末（平成23年3月31日）現在において、当社が判断したものであります。

(1) 出店に係る法的規制について

当社における100円ショップ専門店の出店政策として、対象地域は全国で、出店地域における商圈等を考慮して「インショップ常設店」「商業集積施設テナント」及び「ロードサイド独立店」の3つのタイプで出店しております。当社の現在の店舗または今後出店を予定している店舗はすべて「大規模小売店舗立地法」による規制を受けておりません。しかしながら、当社における出店形態のうちロードサイド独立店については、様々な業界のオーバーストアによって退店した跡地に賃借して出店する方法を主に採用しており、将来発生する物件の中には同法による規制を受ける可能性があり、当社の出店計画及び経営成績が影響を受ける可能性があります。

また、インショップ常設店及び商業集積施設テナントが入居する商業施設は同法による規制を受けており、間接的にはありますが、当社の経営成績が影響を受ける可能性があります。

タイプ別	特徴
インショップ常設店	比較的小規模で、商品回転効率を高め、出店コストを抑えた店舗
商業集積施設テナント	比較的大規模で、商業集積施設のキーテナント的な店舗
ロードサイド独立店	比較的大規模で、比較の出店コストがかかる店舗

(2) 出店政策について

当社は出店に際し、個別店舗の採算を重視した政策をとっており、既存店舗の退店等、不採算店舗の見直しを随時行ってきました。しかしながら、最近の消費者の低価格志向が強まる中、100円ショップ業界各社は業績を拡大させてきており、これらを受けて、他の業界からの新規参入や既存ディスカウントショップ等の均一価格販売の増加により、市場競争は一段と激化してきており、当社の店舗においても今まで以上に戦略的及び積極的な店舗展開が必要であると考えております。

具体的には出店地域、商圈分析、出店タイプ、投資収益性等の開発戦略に基づく出店規模の拡大や、契約内容・条件、採算性に基づく退店であります。

また、当社の最近5年間においては、期末店舗数に対する新規出店の割合が比較的高くなっているため、業容拡大には店舗数の拡大が大きく影響しています。

したがって、当社の店舗政策及び計画に対して、出店条件に合致する物件が不足した場合や、出店先である大手スーパー等のテナントの入れ替え、または商業施設の閉鎖等により退店を余儀なくされる場合には、当初の出店計画を達成することが不可能となり、当社の経営成績に影響を及ぼす可能性があることや、新規出店に係る投資割合が、新規出店による売上高増加割合を上回る場合には、経営成績が影響を受ける可能性があります。

(3) 借入金依存度について

当社は、新規出店における設備投資及び差入保証金等を主に金融機関からの借入により調達してきたため、総資産に対する有利子負債の割合は29.4%（平成23年3月期末現在）となっております。

今後については、手許資金の有効活用等の財務戦略等により改善していく予定ではありますが、今後の金利動向によっては経営成績が影響を受ける可能性があります。

(4) 貸倒損失（貸倒引当金繰入）について

当社は、出店に際し家主に対し敷金保証金の差入を行い、また一部の店舗では売上金について預け金としております。さらに、F C店舗及び大口顧客に対しては掛売による取引を行っております。

当社は、これらの取引先の信用状態の変化には注意を払いながら取引を行っておりますが、取引先の予期せぬ破綻等により貸倒損失が発生するおそれがあります。また、貸倒実績率に基づき貸倒引当金を計上しておりますが、取引先の信用状況が悪化した場合、個別に貸倒引当金を計上することがあります。

このように、取引先の予期せぬ破綻、信用状況悪化によっては経営成績が影響を受ける可能性があります。

（*預け金とは、当社の店舗における売上金を、ディベロッパーに一時的に預けるものであります。）

(5) 商品在庫について

当社の商品在庫は、積極的な店舗展開による店舗の増加に伴い増加する傾向にあり、今後についても、当社は出店の拡大及び売場面積の拡大を図る計画であることから、商品在庫は一層増加していく予定であります。

当社は、最新のインターネット技術を活用したリアルタイムPOSシステムを中核とした商品管理システムを構築し、商品の販売動向、在庫の推移等の全社的なデータ管理により、欠品防止や商品回転率の向上に努めております。また、取扱いアイテム数の増加に伴う欠品率の上昇や仕入の難しさ等から取扱アイテム数は約20,000点と定め、常に消費者に飽きられないための工夫として月間500から700アイテムを入れ替え、旧来の類似商品を廃止する等、消費者ニーズや購買動向にも留意しております。

しかしながら、今後の消費者ニーズ、購買動向等の変化により、滞留在庫が発生する可能性もあり、そのような場合には当社の経営成績が影響を受ける可能性があります。

(6) 商品市況による影響について

当社は多くの商品を取り扱っており、商品市況、とりわけ原油価格の動向によってプラスチック製品等石油を原材料とする商品を主として、幅広い商品の仕入価格が影響を受ける可能性があります。また、当社は多数の店舗を運営しており、原油価格の動向によって、物流費、光熱費等が影響を受ける可能性があります。今後、原油価格が高騰した場合、当社の経営成績が影響を受ける可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の文中における将来に関する事項は、当事業年度末（平成23年3月31日）現在において、当社が判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この財務諸表作成に際し、決算日における資産・負債の数値、報告期間における収益・費用の報告数値に影響を与える見積り及び仮定設定を行っております。この見積り及び仮定設定に関しては、過去の実績や状況に応じた合理的かつ妥当な判断を行っておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、当初の見積りと異なる場合があります。

なお、当社の採用する重要な会計方針は、第5（経理の状況）の「重要な会計方針」に記載しております。

(2) 当事業年度の経営成績の分析

当事業年度の経営成績は、売上高は833億89百万円（前年同期比9.4%増）、経常利益は50億75百万円（前年同期比53.4%増）、当期純利益は23億18百万円（前年同期比55.1%増）となっております。これらの要因は、以下のとおりであります。

売上高・売上原価

売上高につきましては、個人消費の動向が不鮮明な中、消費者の100円ショップに対する支持は変わることなく、堅調に推移しました。その結果、売上高は前年同期比9.4%増の833億89百万円となりました。これを、事業部門別にみますと直営売上高は前年同期比10.5%増の786億16百万円となりました。これは、出店による純増店舗数が59店舗と売上高の増加に寄与し、個人消費に停滞感が漂う中、既存店売上高が前年同期比100.3%と堅調に推移した結果であります。一方、FC売上高は前年同期比7.5%減の36億48百万円、卸売等売上高は前年同期比14.0%減の3億96百万円となりました。これは、FC先の退店による売上減少を、新規FC先の開拓でカバーできず、また商品販売契約での取引が終了したものがあったため等であります。海外売上高は、円高基調の中、前年同期比2.7%増の7億27百万円となりました。

売上原価につきましては、中東情勢の不透明感から原油価格が上昇傾向にあるものの、比較的採算の良い雑貨の販売が順調であるため改善傾向が続き、売上原価率は59.0%と前期比1.2ポイント低下しました。

販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費につきましては、291億7百万円となり前年同期比20億46百万円増加いたしました。これは、直営店の賃借に係る地代家賃の増加6億94百万円、給料及び手当5億43百万円などの増加によるものであります。一方で、経費効率の見直しも進めた結果、販管費率は34.9%と前期を0.6ポイント下回る水準となりました。

営業外収益・営業外費用

営業外収益につきましては、前年とほぼ同額の1億9百万円となりました。

営業外費用につきましては、前年とほぼ同額の1億15百万円となりました。

特別利益・特別損失

特別利益につきましては、貸倒引当金戻入益などで13百万円となりました。

特別損失につきましては、資産除去債務に関する会計基準の適用に伴う影響額の計上3億79百万円や東日本大震災に係る災害による損失の計上1億84百万円などにより、前年同期比4億66百万円増の7億80百万円となりました。

法人税等

法人税等につきましては、税引前当期純利益に対する住民税均等割額のウェイトが低下したことなどにより、表面税率は3.9%低下の46.2%となりました。

(3) 経営戦略の現状と見通し

当社は、中期3か年経営計画を作成し事業に取り組んでおります。中期経営計画は、消費者動向や他の小売動向などの社会情勢、業績や各部門別課題の整備状況などの会社情勢を踏まえ、今後の3年間の基本的経営目標として策定しております。また、この中期経営計画は、毎年見直しを行うローリング方式をとっております。

平成23年4月からの中期経営計画（平成23年4月から平成26年3月まで）においては、「良品開発と商品改良による品質改善」「セリア・オリジナル・チェーン・オペレーションの確立」「収益管理体制の再構築」を経営目標に掲げ、この経営目標をブレイクダウンして、次の5つの機能別戦略を立案し、全社を挙げて取り組んでおります。

POSデータの活用システムの整備運用
運営体制の再構築
新商品の導入
基本商材制度のブラッシュアップ
店舗網の拡充

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

資本の財源

当社は、運転資金及び設備投資資金につきましては、内部留保金を超える資金を金融機関からの借入金により資金調達することとしております。金融機関からの借入金による資金調達に関しましては、原則として固定金利による長期借入金によって調達しております。長期借入金以外の資金調達としては、ファイナンス・リースの使用等によるものがあります。

キャッシュ・フロー計算書に基づく資金の流動性についての分析

当社のキャッシュ・フローにつきましては、当事業年度末の現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末に比べ29億14百万円増加し、74億9百万円となりました。当事業年度における状況につきましては「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2)キャッシュ・フローの状況」をご参照下さい。

(5) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社経営陣は、現在の企業環境及び入手可能な情報等に基づいて、最善の経営戦略・経営方針を立案すべく努めております。しかし、小売業界を取り巻く環境は厳しく、企業間競争の激化は一層続くものと思われま。このような経営環境において、当社経営陣は経営に関する諸問題に対する意識を、経営陣だけに留めず広く社内全般で共有し、問題解決に全社員で当たり速やかに解決する所存であります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当事業年度中に実施した設備投資の総額は、33億54百万円（差入保証金6億3百万円を含む）であります。当事業年度の設備投資は、販売力の増強を図るために新規出店を引き続き推進いたしました。このうち主なものは81店舗の出店に伴う建物設備等の取得12億32百万円、差入保証金の差入6億3百万円などであります。

なお、営業に重要な影響を及ぼすような設備の除却、売却等はありません。

また、「第3 設備の状況」に記載している金額には、消費税等は含まれておりません。

当社は100円ショップ事業の単一セグメントであります。

2【主要な設備の状況】

(平成23年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	設備の 内容	投下資本(百万円)						売場面積 (㎡)	従業員数 (人)
		建物	土地 (面積㎡)	リース 資産	差入 保証金	その他	合計		
本社(岐阜県大垣市)	管理 設備	31	838 (8,075)	164	24	50	1,108		65 (34)
イオン旭川西店(旭川 市)ほか北海道26店舗	販売 設備	94	()	550	256	6	907	16,600 (16,600)	8 (144)
ジャスコ笠間店(笠間 市)ほか茨城県40店舗	販売 設備	71	()	70	281	7	430	21,411 (21,411)	7 (207)
いなげや川越店(川越市) ほか埼玉県30店舗	販売 設備	62	()	60	245	5	373	16,892 (16,892)	8 (190)
八千代緑が丘店(八千代 市)ほか千葉県33店舗	販売 設備	119	()	59	215	10	405	17,369 (17,369)	10 (227)
豊洲店(江東区)ほか東 京都28店舗	販売 設備	131	()	67	175	3	378	11,573 (11,573)	7 (197)
トレッサ横浜店(横浜市 港北区)ほか神奈川県30 店舗	販売 設備	162	()	75	298	9	546	15,456 (15,456)	8 (220)
女池店(新潟市中央区) ほか新潟県32店舗	販売 設備	58	()	59	184	5	307	15,766 (15,766)	4 (133)
大垣店(大垣市)ほか岐 阜県36店舗	販売 設備	98	()	74	216	16	405	18,791 (18,791)	9 (229)
南浅田店(浜松市中区) ほか静岡県63店舗	販売 設備	173	()	271	477	27	949	34,136 (33,559)	17 (368)
ジャスコ八事店(名古屋 市昭和区)ほか愛知県 131店舗	販売 設備	378	()	275	687	21	1,362	57,879 (57,077)	28 (836)
ラスクエア店(四日市 市)ほか三重県29店舗	販売 設備	67	()	71	274	3	416	15,103 (15,103)	6 (175)
フォレオ大津一里山店 (大津市)ほか滋賀県23 店舗	販売 設備	72	()	64	141	5	282	11,377 (11,377)	6 (149)
天保山店(大阪市港区) ほか大阪府32店舗	販売 設備	144	()	320	321	8	794	16,912 (16,912)	7 (269)
ハーバーランド店(神戸 市中央区)ほか兵庫県25 店舗	販売 設備	133	()	95	153	7	389	14,737 (14,737)	8 (202)
桜井店(桜井市)ほか奈 良県11店舗	販売 設備	73	()	40	95	4	213	6,535 (6,535)	3 (112)
ホークスタウン店(福岡 市中央区)ほか福岡県29 店舗	販売 設備	164	()	258	184	11	618	16,134 (16,134)	7 (187)
トキハインダストリー南 大分店(大分市)ほか大 分県11店舗	販売 設備	58	()	46	105	3	213	7,430 (7,430)	3 (85)

(注) 1 投下資本のうち「その他」は、「構築物」、「車両運搬具」及び「工具、器具及び備品」であります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2 投下資本には、建設仮勘定の金額を含んでおりません。

3 現在休止中の設備はありません。

4 売場面積欄の()内は、賃借面積で内書で示しております。

5 従業員数欄の()内は、外書で臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算による平均雇用人数)を示しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設

事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加面積 (㎡)
		総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
Seriaイオン大野城店(福 岡県大野城市)	新設	48	3	自己資金	平成23年 3月	平成23年 4月	551
Seriaまるたか東長崎店 (長崎県長崎市)	新設	58	0	自己資金	平成23年 3月	平成23年 4月	613
Seria鳴門店(徳島県鳴門 市)	新設	46		自己資金	平成23年 4月	平成23年 5月	660
Seriaライフ学園前店(奈 良県奈良市)	新設	46	2	自己資金	平成23年 3月	平成23年 5月	722
Seriaウエストコート姪 浜店(福岡県福岡市西区)	新設	63	7	自己資金	平成23年 3月	平成23年 6月	709
Seriaピバモール寝屋川 店(大阪府寝屋川市)	新設	87	9	自己資金	平成23年 3月	平成23年 6月	785
Seriaイトーヨーカドー 錦町店(埼玉県蕨市)	新設	53		自己資金	平成23年 5月	平成23年 6月	726
平成24年3月までに出店 予定の63店舗	新設	1,349	81	自己資金 銀行借入	平成23年 4月以降	平成24年 3月	34,298
合計		1,750	103				39,064

(2) 重要な改修

事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完了予定 年月
		総額 (百万円)	既支払額 (百万円)			
本社 (岐阜県大垣市)	システム改修	150		自己資金 銀行借入	平成23年 4月	平成24年 3月

(3) 重要な設備の除却

特記すべき事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000
計	200,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成23年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成23年6月29日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	75,840	75,840	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	当社は単元株制度は採用しておりません。
計	75,840	75,840		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(百万円)	資本金残高(百万円)	資本準備金増減額(百万円)	資本準備金残高(百万円)
平成18年4月1日 (注)	37,920	75,840		1,278		1,419

(注) 株式分割

分割比率 1 : 2

(6)【所有者別状況】

(平成23年3月31日現在)

区分	株式の状況							単位未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		15	11	77	38		1,106	1,247	
所有株式数(株)		13,443	217	28,570	10,698		22,912	75,840	
所有株式数の割合(%)		17.72	0.28	37.67	14.10		30.21	100.00	

(7)【大株主の状況】

(平成23年3月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社ヒロコーポレーション	岐阜県大垣市外濑2丁目38番地	22,800	30.06
メロン バンク エヌエー トリー ティー クライアント オムニバス (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ 銀行)	ONE MELLON BANK CENTER, PITTSBURGH, PENNSYLVANIA, USA (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)	7,291	9.61
河合 宏光	岐阜県大垣市	5,040	6.65
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	4,771	6.29
伊藤 二作	愛知県一宮市	4,200	5.54
河合 秋代	岐阜県大垣市	2,120	2.80
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,422	1.87
伊藤 スミ子	愛知県一宮市	1,400	1.85
株式会社大垣共立銀行	岐阜県大垣市郭町3丁目98番地	1,395	1.83
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	1,200	1.58
計		51,639	68.08

(注) 1 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 4,771株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 1,422株

2 フィデリティ投信株式会社及びその共同保有者であるエフエムアール エルエルシー (FMR LLC)から平成21年6月26日付の大量保有報告書の変更報告書の写しの送付があり、平成21年6月23日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
フィデリティ投信株式 会社	東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 城山ト ラストタワー	株式 533	0.70
エフエムアール エル エルシー (FMR LLC)	米国 02109 マサチューセッツ州ボスト ン、デヴォンシャー・ストリート82	株式 7,051	9.30

(8) 【議決権の状況】
【発行済株式】

(平成23年3月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 75,840	75,840	
単元未満株式			
発行済株式総数	75,840		
総株主の議決権		75,840	

【自己株式等】

(平成23年3月31日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
計					

(9) 【ストックオプション制度の内容】
該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】
該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】
該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】
該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】
該当事項はありません。

3【配当政策】

当社は、企業価値を向上させることによって株主利益を増大させることを重要な課題としております。利益配分につきましては、経営基盤や財務体質の強化を図り、利益水準や配当性向を考慮しつつ安定的な配当の継続を目指しております。

当社は、期末配当にて年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、この剰余金の配当の決定機関は株主総会であります。

内部留保資金につきましては、新店の設備投資や既存店舗のリニューアル資金に充当し、売上高の拡大、自己資本利益率の一層の向上により、長期的な株主利益の増大を図ってまいります。

なお、当社は、「取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる。」旨を定款に定めております。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成23年6月28日 定時株主総会決議	189	2,500

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次 決算年月	第20期 平成19年3月	第21期 平成20年3月	第22期 平成21年3月	第23期 平成22年3月	第24期 平成23年3月
最高(円)	311,000	263,000	91,600	142,000	244,400
最低(円)	175,000	64,500	42,200	63,000	119,100

(注) 最高・最低株価は、平成22年4月1日より大阪証券取引所JASDAQにおけるものであり、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。それ以前はジャスダック証券取引所におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成22年10月	11月	12月	平成23年1月	2月	3月
最高(円)	149,800	149,000	158,700	179,000	222,000	244,400
最低(円)	137,000	140,500	138,300	155,300	169,500	140,000

(注) 最高・最低株価は、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、それ以前は大阪証券取引所JASDAQにおけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長		河合 宏光	昭和22年10月13日生	昭和62年10月 平成2年7月 平成10年11月 平成16年3月	当社設立 代表取締役社長就任(現任) ㈲日祥(平成10年11月㈲日祥に 改組)代表取締役就任 ㈲日祥(現㈲ヒロコーポレー ション)代表取締役社長就任 (現任) 商品部長就任	(注)2	5,040
専務取締役		伊藤 二作	昭和22年3月1日生	昭和62年10月 平成4年9月	当社入社 取締役営業部長就任 専務取締役就任(現任)	(注)2	4,200
常務取締役	経営企画室長	河合 映治	昭和42年9月7日生	平成2年4月 平成12年10月 平成15年5月 平成15年6月 平成17年3月	㈲大垣共立銀行入行 同行審査部調査役 当社入社 常務取締役就任(現任) 経営企画室長就任(現任)	(注)2	484
取締役	業務部長 兼業務開発部長	岩間 靖	昭和43年5月2日生	平成元年4月 平成5年4月 平成13年4月 平成13年6月 平成18年4月	㈲テイ・アイ・エス入社 当社入社 業務部長 取締役業務部長就任 取締役業務部長兼業務開発部長 就任(現任)	(注)2	240
常勤監査役		奥村 裕	昭和25年4月18日生	昭和56年4月 平成4年9月 平成13年6月	佐川急便㈲入社 当社入社 営業部営業課長 常勤監査役就任(現任)	(注)3	360
監査役		細井 章吾	昭和15年9月26日生	昭和35年4月 平成10年7月 平成11年8月 平成13年6月	名古屋国税局入局 名古屋中税務署署長 税理士登録、細井税理士事務所開 設 監査役就任(現任)	(注)3	72
監査役		山口 敬二	昭和33年4月16日生	平成2年4月 平成5年4月 平成16年6月	弁護士登録(名古屋弁護士会 現愛知県弁護士会) 山口敬二法律事務所開設 監査役就任(現任)	(注)3	
計							10,396

(注)1 監査役細井章吾及び監査役山口敬二は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

- 2 平成22年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
- 3 平成20年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

イ 企業統治の体制の概要

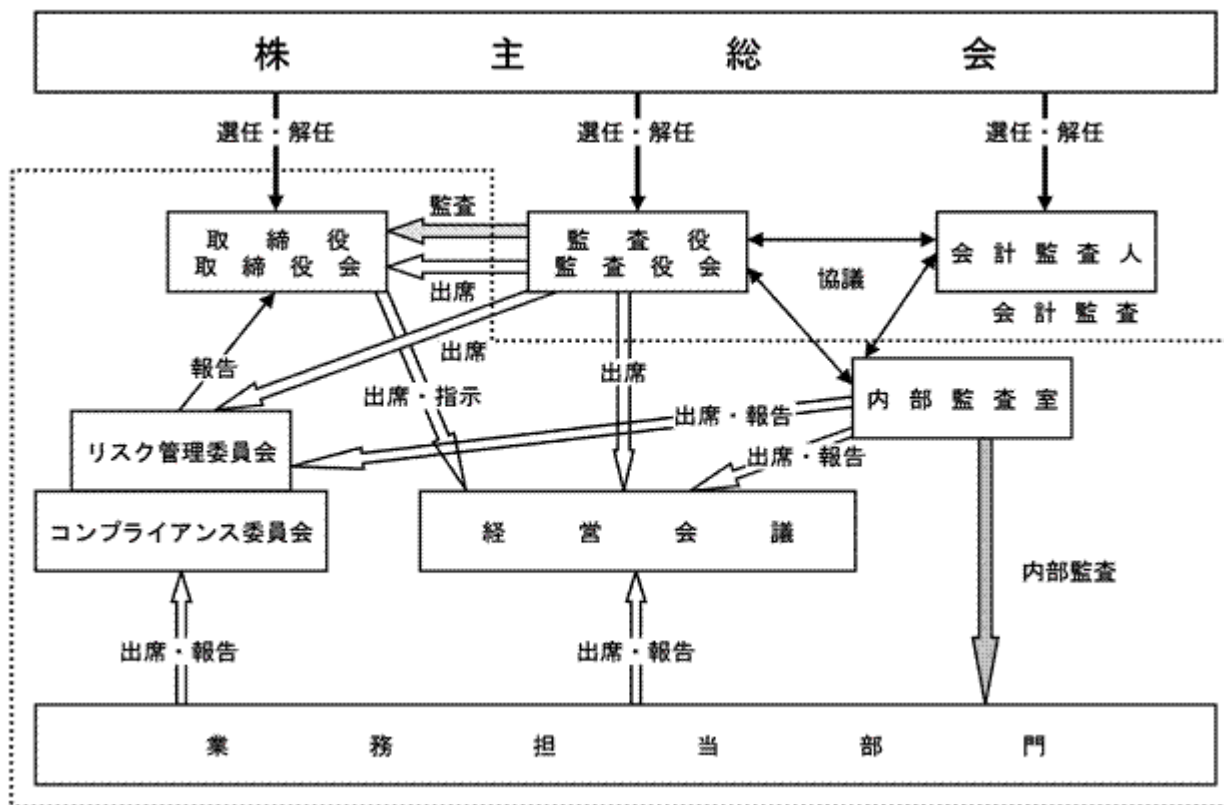
取締役会は、月1回定時取締役会、また必要に応じて臨時取締役会を開催し、十分な議論を尽くした上で経営上の重要な意思決定を行っております。常勤監査役及び非常勤監査役は、取締役会に出席し、取締役の職務執行について厳正な監視を行っております。

監査役会は、年間7回開催し、監査の方針・業務の分担等を決定し、監査役全員で協議の上、取締役の職務の執行を監査しております。

経営会議は、会社の抱える課題に迅速に対処するために月1回開催しております。当会議は、副部長以上で構成される会議で、各担当部門の状況報告等を行い、その内容について出席者が意見具申を行うことで課題の共通認識と情報の共有化を図っております。

内部監査室は、内部監査規程により計画的な監査を実施するほか、特命による臨時監査を行っております。また、平成17年1月から自店監査制度の運用を開始し、全店において年1回以上の監査を行う体制を確立しました。

会計監査は有限責任監査法人トーマツに依頼しており、定期的な会計監査のほか、会計上の課題について随時確認を行い、適正な会計処理に努めております。また、顧問弁護士とは顧問契約に基づき、必要に応じて適宜アドバイスを受けております。



(注) 模式図は平成23年6月29日現在のものです。

ロ 企業統治の体制採用する理由

当社は、監査役会を設置しております。当社は、コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えております。そのため、監査役3名のうち、非常勤監査役2名を社外監査役とすることで、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

ハ 内部統制システムの整備の状況

当社は、経営環境の変化に迅速的確に対応し、透明性と健全性を高めた経営体制を確立し、企業をとりまくステークホルダーの利害を調整しつつ、株主利益を尊重し企業価値を増大させることを基本方針としております。この方針の下、平成18年5月2日の取締役会で決議した「内部統制システムの構築に関する基本方針」は次のとおりであります。

1. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
コンプライアンスに関する委員会の設置、規程、行動規範及び内部通報制度の整備を行う。
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る重要書類の保存期間等を定める規程の整備を行う。

3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスク管理に関する委員会の設置及び規程の整備を行う。

4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役の職務の執行が効率的に行われるために、規程の整備を行う。

5. 当該株式会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
子会社に関する管理規程の整備を行う。当社グループの財務報告に係る内部統制の文書化及び評価の方法を定める。

6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

必要に応じて内部監査室が監査役及び監査役会の補佐をする。

7. 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役補助スタッフの当該人事については、取締役からの独立性を確保するため、監査役と事前に協議する。

8. 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

監査役への報告体制を以下のとおり整備する。

取締役は、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実、不正もしくは法令・定款違反等について監査役に報告する。従業員は、直属部長に報告するとともに、必要に応じて内部通報制度等を利用し報告する。

監査役が必要と認めた場合、取締役、委員会、従業員及び内部通報制度の責任者は業務内容等について監査役に報告する。

9. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、代表取締役社長、会計監査人及び内部監査室等との連携体制を図るため、適宜に情報及び意見交換を行う。

10. その他

社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体との一切の関係を持たず、不当な要求には毅然とした態度で臨み、公序良俗に反する行為をしないことを基本方針とし、行動規範及びコンプライアンスガイドラインの整備を行う。

二 リスク管理体制の整備の状況等

当社のリスク管理体制は、取締役会及び経営会議を中心に構築されており、毎月開催される会議の席上で業務執行部門長または担当取締役からその執行状況が報告され、出席者全員が共通の理解を持ち、対策の協議検討を行っております。さらに、取締役会には非常勤監査役を含む全監査役、経営会議には常勤監査役及び内部監査室長も出席し、各種法令や社内規程の遵守状況などコンプライアンス面での確認も行われております。

リスク管理体制の整備のため、平成18年5月にリスク管理規程を新たに制定しております。また、総務部を中心にリスク管理委員会を運営し、想定されるリスクに対する対応策等を検討しております。

情報管理体制の整備のため、文書管理規程を制定し業務執行に係る各種書類の管理保存を行っております。コンピューターを中心とする情報ネットワークに関しても、その運用規程を制定し適切な管理運用を行っております。また、ネットワークの監視システムを導入し、情報の管理運営に関しては十分な注意を払っております。

社内規程は、法令の施行・改廃や社会環境の変化を受け随時改定作業を行い、企業としての社会的責任（CSR）を全うすることができるように整備を行っております。

反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備としては、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体との一切の関係を持たず、不当な要求には毅然とした態度で臨み、公序良俗に反する行為をしないことを基本方針としております。

この基本方針に基づき、行動規範及びコンプライアンスガイドラインにその旨を定めるとともに、適宜に警察及び弁護士等を含めた外部機関と連携して、組織的に対処する体制を構築しております。

内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部監査及び監査役監査の組織は、専任の内部監査室長1名及び室員1名並びに常勤監査役1名が随時協議を行いながら、本社各部や営業所・店舗に対して監査を行っております。また、内部監査室及び監査役は、会計監査を担当する公認会計士とも情報の交換を行い、各々の監査を効率的に進めております。

なお、監査役細井章吾は、税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外監査役は2名であります。

社外監査役山口敬二は、本人及びその近親者並びにそれらが取締役または監査役に就任する会社と当社との人

事、資金、技術及び取引等はありません。

社外監査役細井章吾は、当社株式を72株所有しておりますが、本人及びその近親者並びにそれらが取締役または監査役に就任する会社と当社との人事、資金、技術及び取引等はありません。

当社は、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役による監査を実施しております。

当社は、財務及び会計に関する相当程度の知見を有する人材を、広く社外に求め社外監査役として選任しております。また、財務及び会計の分野以外の専門性を持つ人材も、企業統治の観点から社外監査役として選任しております。

社外監査役は、常勤監査役が内部監査室及び会計監査を担当する公認会計士と情報の交換を行い、効率的に進めている各々の監査の状況を監査役会で確認するとともに、随時社内外での監査を行っております。

当社は社外取締役を選任しておりません。当社は、コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えております。そのため、監査役3名のうち、非常勤監査役2名を社外監査役としております。監査役は、取締役会に出席し、その討議内容についてチェックを行い、客観的な立場からの発言を行っております。これらにより経営の監視体制としては十分に機能する体制が整っているため、現状の体制を採用しております。

会計監査の状況

当社の会計監査を執行した公認会計士は、松岡正明及び鈴木晴久であります。また、監査業務に係る補助者は、公認会計士7名、その他20名であります。

取締役の定数

当社は、取締役の定数を10名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議につき、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。また、取締役の選任については、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

株主総会の決議事項を取締役会で決議することができることとしている事項

当社は、自己株式の取得について、会社法第165条第2項の規定により、機動的な資本政策等を遂行するため、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

役員報酬等

イ 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の 総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役	169	169				4
監査役 (社外監査役を除く)	11	11				1
社外役員	4	4				2

(注) 上記のほかに役員退職慰労引当金の繰入額が16百万円(取締役15百万円、監査役1百万円、社外役員0百万円)あります。

ロ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

株式の保有状況

イ 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
1銘柄 0百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
(前事業年度及び当事業年度)

純投資目的以外の目的で保有する投資株式は、すべて非上場株式のため該当事項はありません。

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並に
当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

	前事業年度 (百万円)	当事業年度 (百万円)				
	貸借対照表 計上額の合計	貸借対照表 計上額の合計	受取配当金の 合計額	売却損益の 合計額	評価損益の 合計額	減損処理額
非上場株式	3	3	0		(注)	
上記以外の株式	157	132	2		13	26

(注) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから「評価損益の合計額」は記載しておりません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前事業年度		当事業年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	25		25	
計	25		25	

【その他重要な報酬の内容】

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）及び当事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 連結財務諸表について

「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を誤らせない程度に重要性が乏しいものとして、連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	0.2%
売上高基準	0.1%
利益基準	0.6%
利益剰余金基準	0.2%

会社間項目の消去後の数値により算出しております。

4 財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

また、公益財団法人財務会計基準機構の行うF A S Fセミナーに参加しております。

1【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,366	8,231
売掛金	414	407
商品及び製品	9,745	9,369
前払費用	492	514
繰延税金資産	250	313
預け金	1,574	1,801
その他	51	45
貸倒引当金	26	26
流動資産合計	17,869	20,657
固定資産		
有形固定資産		
建物	7,847	9,523
減価償却累計額	5,017	6,241
建物(純額)	2,830	3,281
構築物	313	329
減価償却累計額	150	172
構築物(純額)	163	156
車両運搬具	30	30
減価償却累計額	22	14
車両運搬具(純額)	7	15
工具、器具及び備品	1,483	888
減価償却累計額	1,234	745
工具、器具及び備品(純額)	248	142
土地	949	979
リース資産	3,787	4,858
減価償却累計額	1,047	1,535
リース資産(純額)	2,739	3,323
建設仮勘定	0	3
有形固定資産合計	6,939	7,902
無形固定資産		
意匠権	26	21
ソフトウェア	399	315
電話加入権	22	22
リース資産	8	1
その他	13	11
無形固定資産合計	471	371
投資その他の資産		
投資有価証券	260	235
関係会社出資金	33	33
長期貸付金	40	36

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
従業員長期貸付金	11	11
破産更生債権等	49	28
長期前払費用	326	352
繰延税金資産	224	397
敷金及び保証金	5,726	6,042
保険積立金	254	282
その他	96	52
貸倒引当金	161	100
投資その他の資産合計	6,863	7,371
固定資産合計	14,274	15,645
資産合計	32,143	36,302
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,482	7,312
1年内返済予定の長期借入金	2,644	2,588
リース債務	669	787
未払金	509	560
未払費用	1,241	1,346
未払消費税等	276	224
未払法人税等	1,245	1,469
前受金	20	13
預り金	18	17
賞与引当金	196	290
災害損失引当金	-	50
資産除去債務	-	17
その他	3	0
流動負債合計	13,308	14,680
固定負債		
長期借入金	5,178	4,615
リース債務	2,157	2,680
退職給付引当金	233	217
役員退職慰労引当金	244	260
資産除去債務	-	713
預り保証金	132	122
固定負債合計	7,946	8,608
負債合計	21,255	23,288

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,278	1,278
資本剰余金		
資本準備金	1,419	1,419
資本剰余金合計	1,419	1,419
利益剰余金		
利益準備金	11	11
その他利益剰余金		
別途積立金	280	280
繰越利益剰余金	7,907	10,036
利益剰余金合計	8,198	10,327
株主資本合計	10,896	13,025
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8	12
評価・換算差額等合計	8	12
純資産合計	10,887	13,013
負債純資産合計	32,143	36,302

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
売上高	76,244	83,389
売上原価		
商品期首たな卸高	9,656	9,745
当期商品仕入高	45,956	48,823
合計	55,613	58,569
商品期末たな卸高	9,745	9,369
商品売上原価	45,868	49,199
売上総利益	30,376	34,189
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	304	388
販売手数料	643	642
荷造運搬費	669	958
役員報酬	179	186
給料及び手当	10,030	10,574
賞与	163	219
賞与引当金繰入額	196	290
退職給付費用	31	45
法定福利費	485	575
地代家賃	8,229	8,924
減価償却費	1,892	2,034
リース料	56	50
水道光熱費	1,616	1,747
旅費及び交通費	179	165
消耗品費	523	463
支払手数料	430	470
貸倒引当金繰入額	44	-
その他	1,384	1,370
販売費及び一般管理費合計	27,061	29,107
営業利益	3,314	5,081
営業外収益		
受取利息	21	18
受取配当金	2	2
受取家賃	52	44
受取保険金	7	4
受取補償金	8	21
その他	16	17
営業外収益合計	109	109

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
営業外費用		
支払利息	104	103
その他	11	12
営業外費用合計	115	115
経常利益	3,308	5,075
特別利益		
貸倒引当金戻入額	-	12
固定資産売却益	-	1
特別利益合計	-	13
特別損失		
固定資産除却損	1 9	2 66
固定資産売却損	2 0	3 0
減損損失	3 93	4 120
契約解除違約金	0	3
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	379
災害による損失	-	5 184
投資有価証券評価損	53	26
退職給付費用	152	-
店舗閉鎖損失	3	-
特別損失合計	314	780
税引前当期純利益	2,994	4,307
法人税、住民税及び事業税	1,660	2,229
法人税等調整額	160	240
法人税等合計	1,499	1,988
当期純利益	1,494	2,318

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	1,278	1,278
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,278	1,278
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	1,419	1,419
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,419	1,419
資本剰余金合計		
前期末残高	1,419	1,419
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,419	1,419
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	11	11
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	11	11
その他利益剰余金		
別途積立金		
前期末残高	280	280
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	280	280
繰越利益剰余金		
前期末残高	6,601	7,907
当期変動額		
剰余金の配当	189	189
当期純利益	1,494	2,318
当期変動額合計	1,305	2,129
当期末残高	7,907	10,036
利益剰余金合計		
前期末残高	6,893	8,198
当期変動額		
剰余金の配当	189	189
当期純利益	1,494	2,318
当期変動額合計	1,305	2,129
当期末残高	8,198	10,327

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
株主資本合計		
前期末残高	9,591	10,896
当期変動額		
剰余金の配当	189	189
当期純利益	1,494	2,318
当期変動額合計	1,305	2,129
当期末残高	10,896	13,025
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	28	8
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	19	3
当期変動額合計	19	3
当期末残高	8	12
評価・換算差額等合計		
前期末残高	28	8
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	19	3
当期変動額合計	19	3
当期末残高	8	12
純資産合計		
前期末残高	9,562	10,887
当期変動額		
剰余金の配当	189	189
当期純利益	1,494	2,318
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	19	3
当期変動額合計	1,324	2,126
当期末残高	10,887	13,013

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	2,994	4,307
減価償却費	1,892	2,034
貸倒引当金の増減額（ は減少）	20	61
賞与引当金の増減額（ は減少）	54	93
災害損失引当金の増減額（ は減少）	-	50
退職給付引当金の増減額（ は減少）	169	15
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	9	15
店舗閉鎖損失引当金の増減額（ は減少）	12	-
受取利息及び受取配当金	23	21
支払利息	104	103
固定資産除却損	9	66
減損損失	93	120
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	379
投資有価証券評価損益（ は益）	53	26
為替差損益（ は益）	-	1
売上債権の増減額（ は増加）	25	7
預け金の増減額（ は増加）	304	227
たな卸資産の増減額（ は増加）	88	376
仕入債務の増減額（ は減少）	500	830
未払消費税等の増減額（ は減少）	165	52
その他	177	267
小計	5,841	8,302
利息及び配当金の受取額	9	9
利息の支払額	102	101
法人税等の支払額	882	1,989
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,866	6,220
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	225	120
定期預金の払戻による収入	230	170
有形固定資産の取得による支出	1,073	1,298
無形固定資産の取得による支出	50	57
長期貸付金の回収による収入	0	0
差入保証金の差入による支出	848	603
差入保証金の回収による収入	443	297
投資有価証券の取得による支出	35	-
その他	90	77
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,649	1,688

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	3,100	2,200
長期借入金の返済による支出	2,827	2,819
配当金の支払額	189	189
リース債務の返済による支出	712	806
財務活動によるキャッシュ・フロー	630	1,615
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	1
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,581	2,914
現金及び現金同等物の期首残高	1,912	4,494
現金及び現金同等物の期末残高	1 4,494	1 7,409

【重要な会計方針】

項目	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
1 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 満期保有目的の債券 償却原価法(定額法) (2) その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) 時価のないもの 移動平均法に基づく原価法	(1) 満期保有目的の債券 同左 (2) その他有価証券 時価のあるもの 同左 時価のないもの 同左
2 デリバティブ等の評価基準及び評価方法	デリバティブ 時価法	デリバティブ 同左
3 たな卸資産の評価基準及び評価方法	(1) 商品 ・本部在庫品 総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法) ・店舗在庫品 売価還元法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)	(1) 商品 ・本部在庫品 同左 ・店舗在庫品 同左
4 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法 ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法によっております。 なお、主な資産の耐用年数は、次のとおりであります。 建物 2～47年 構築物 8～40年 工具、器具及び備品 2～15年 (2) 無形固定資産(リース資産を除く) 定額法 なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。	(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 同左 (2) 無形固定資産(リース資産を除く) 同左

項目	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
	(3) リース資産 定額法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零としております。	(3) リース資産 同左
5 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 売上債権、貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員の賞与の支給に備えるため、翌事業年度の支給見込額のうち、当事業年度の負担すべき金額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき計上しております。</p> <p>(追加情報) 事業拡大による人員の増加に伴い、退職給付債務の計算対象となる従業員の数が期中に300名を超えたため、当事業年度末より退職給付債務の見込額の計算方法を従来の簡便法から原則法に変更し、簡便法による算出金額と原則法による算出金額との差額152百万円を退職給付費用として特別損失に計上しております。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えて、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p> <p>(5) 店舗閉鎖損失引当金 店舗閉鎖に伴い発生する損失に備えるため、当該店舗の閉鎖時に発生すると見込まれる損失額を計上しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 同左</p> <p>(5) 店舗閉鎖損失引当金 同左</p> <p>(6) 災害損失引当金 災害により被災した店舗の復旧等に要する費用または損失に備えるため、当事業年度末における見積額を計上しております。</p>

項目	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
6 ヘッジ会計の方法	<p>(1) ヘッジ会計の方法 原則として繰延ヘッジ処理を採用しております。 なお、金利スワップについては、特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用しております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 金利スワップ及び為替予約 ヘッジ対象 変動金利借入金及び外貨建予定取引</p> <p>(3) ヘッジ方針 当社の社内規程に基づき、将来の金利変動リスク及び為替変動リスク回避のために行っております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。 ただし、特例処理によっている金利スワップについては、ヘッジの有効性評価を省略しております。</p>	<p>(1) ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 同左 ヘッジ対象 同左</p> <p>(3) ヘッジ方針 同左</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 同左</p>
7 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	<p>キャッシュ・フロー計算書上、資金の範囲に含めた現金及び現金同等物は、手許現金、要求払預金及び取得日から3か月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資であります。</p>	<p>同左</p>
8 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>消費税等の会計処理 税抜方式によっております。</p>	<p>消費税等の会計処理 同左</p>

【会計処理方法の変更】

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
	<p>(資産除去債務に関する会計基準の適用) 当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」 (企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。 これにより、当事業年度の営業利益及び経常利益は68百万円、税引前当期純利益は465百万円それぞれ減少しております。</p>

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)																								
<p>1 担保に供している資産及びこれに対応する債務</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物</td> <td style="text-align: right;">349百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">906百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,255百万円</td> </tr> </table> <p>(2) 上記に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1年内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,329百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">2,436百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,765百万円</td> </tr> </table> <p>上記の資産に対する根抵当極度額は1,657百万円 であります。</p>	建物	349百万円	土地	906百万円	計	1,255百万円	1年内返済予定の長期借入金	1,329百万円	長期借入金	2,436百万円	計	3,765百万円	<p>1 担保に供している資産及びこれに対応する債務</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物</td> <td style="text-align: right;">336百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">906百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,242百万円</td> </tr> </table> <p>(2) 上記に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1年内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,313百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">2,054百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,367百万円</td> </tr> </table> <p>上記の資産に対する根抵当極度額は1,657百万円 であります。</p> <p>2 受取手形割引高 5百万円</p>	建物	336百万円	土地	906百万円	計	1,242百万円	1年内返済予定の長期借入金	1,313百万円	長期借入金	2,054百万円	計	3,367百万円
建物	349百万円																								
土地	906百万円																								
計	1,255百万円																								
1年内返済予定の長期借入金	1,329百万円																								
長期借入金	2,436百万円																								
計	3,765百万円																								
建物	336百万円																								
土地	906百万円																								
計	1,242百万円																								
1年内返済予定の長期借入金	1,313百万円																								
長期借入金	2,054百万円																								
計	3,367百万円																								

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)																																														
<p>1 固定資産除却損は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">6百万円</td> </tr> <tr> <td>構築物</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品等</td> <td style="text-align: right;">2百万円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">9百万円</td> </tr> </table> <p>2 固定資産売却損は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">車両運搬具</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> </table> <p>3 減損損失 当事業年度において、当社は、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">用途</th> <th style="width: 20%;">種類</th> <th style="width: 60%;">場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">店舗</td> <td style="text-align: center;">建物等</td> <td>Seria生活良品鶴沼店(岐阜県各務原市)他42店舗</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社は、原則として各店舗を基本単位としてグルーピングしております。営業活動による損益が継続してマイナスとなる店舗について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額93百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。その内訳は建物79百万円、構築物6百万円及び長期前払費用7百万円であります。なお、当該資産の回収可能価額は、使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを7%で割引いて算出しております。</p>	建物	6百万円	構築物	0百万円	工具、器具及び備品等	2百万円	計	9百万円	車両運搬具	0百万円	用途	種類	場所	店舗	建物等	Seria生活良品鶴沼店(岐阜県各務原市)他42店舗	<p>1 固定資産売却益は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">車両運搬具</td> <td style="text-align: right;">1百万円</td> </tr> </table> <p>2 固定資産除却損は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">27百万円</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品等</td> <td style="text-align: right;">39百万円</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">66百万円</td> </tr> </table> <p>3 固定資産売却損は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">工具、器具及び備品等</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> </table> <p>4 減損損失 当事業年度において、当社は、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">用途</th> <th style="width: 20%;">種類</th> <th style="width: 60%;">場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">店舗</td> <td style="text-align: center;">建物等</td> <td>Seria生活良品磐田店(静岡県磐田市)他46店舗</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社は、原則として各店舗を基本単位としてグルーピングしております。営業活動による損益が継続してマイナスとなる店舗について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額120百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。その内訳は建物118百万円及び構築物2百万円であります。なお、当該資産の回収可能価額は、使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを9%で割引いて算出しております。</p> <p>5 災害による損失は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金の減失</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> <tr> <td>商品の減失</td> <td style="text-align: right;">66百万円</td> </tr> <tr> <td>有形固定資産の減失</td> <td style="text-align: right;">16百万円</td> </tr> <tr> <td>見舞金の支給</td> <td style="text-align: right;">50百万円</td> </tr> <tr> <td>災害損失引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">50百万円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">184百万円</td> </tr> </table>	車両運搬具	1百万円	建物	27百万円	工具、器具及び備品等	39百万円	ソフトウェア	0百万円	計	66百万円	工具、器具及び備品等	0百万円	用途	種類	場所	店舗	建物等	Seria生活良品磐田店(静岡県磐田市)他46店舗	現金の減失	0百万円	商品の減失	66百万円	有形固定資産の減失	16百万円	見舞金の支給	50百万円	災害損失引当金繰入額	50百万円	計	184百万円
建物	6百万円																																														
構築物	0百万円																																														
工具、器具及び備品等	2百万円																																														
計	9百万円																																														
車両運搬具	0百万円																																														
用途	種類	場所																																													
店舗	建物等	Seria生活良品鶴沼店(岐阜県各務原市)他42店舗																																													
車両運搬具	1百万円																																														
建物	27百万円																																														
工具、器具及び備品等	39百万円																																														
ソフトウェア	0百万円																																														
計	66百万円																																														
工具、器具及び備品等	0百万円																																														
用途	種類	場所																																													
店舗	建物等	Seria生活良品磐田店(静岡県磐田市)他46店舗																																													
現金の減失	0百万円																																														
商品の減失	66百万円																																														
有形固定資産の減失	16百万円																																														
見舞金の支給	50百万円																																														
災害損失引当金繰入額	50百万円																																														
計	184百万円																																														

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	前事業年度末株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	75,840	-	-	75,840
合計	75,840	-	-	75,840

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月25日 定時株主総会	普通株式	189	2,500	平成21年3月31日	平成21年6月26日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月24日 定時株主総会	普通株式	189	利益剰余金	2,500	平成22年3月31日	平成22年6月25日

当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	前事業年度末株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	75,840	-	-	75,840
合計	75,840	-	-	75,840

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月24日 定時株主総会	普通株式	189	2,500	平成22年3月31日	平成22年6月25日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月28日 定時株主総会	普通株式	189	利益剰余金	2,500	平成23年3月31日	平成23年6月29日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金勘定 5,366百万円	現金及び預金勘定 8,231百万円
預入期間が3か月を超える定期預金 872百万円	預入期間が3か月を超える定期預金 822百万円
現金及び現金同等物 4,494百万円	現金及び現金同等物 7,409百万円

(リース取引関係)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
(借主側)	(借主側)
1 ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引	1 ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引
(1) リース資産の内容	(1) リース資産の内容
有形固定資産	有形固定資産
店舗における什器等の器具備品及び本社並びに店舗で使用するOA機器であります。	同 左
無形固定資産	無形固定資産
ソフトウェアであります。	同 左
(2) リース資産の減価償却の方法	(2) リース資産の減価償却の方法
重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却の方法	同 左
(3) リース資産」に記載のとおりであります。	
2 オペレーティング・リース取引 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料	2 オペレーティング・リース取引 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料
1年内 1,393百万円	1年内 1,446百万円
1年超 7,613百万円	1年超 7,557百万円
合計 9,006百万円	合計 9,004百万円

(金融商品関係)

前事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については、短期的な預金取引に限定し、資金調達については、信用力の高い金融機関からの借入に限定しております。当社の事業目的に則り立案された設備投資計画に基づき、必要としている資金を適切に調達しております。デリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わないこととしております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

現金及び預金は、現金、流動性預金及び1年以内に満期の来る定期性預金であります。預金は、預け入れ先の金融機関の信用リスクに晒されております。

売掛金はF C契約先及び卸売先に関する営業債権であります。敷金及び保証金は、主に直営店舗の賃借取引に係る敷金及び差入保証金であります。これらは、取引先の債務不履行によってもたらされる信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に債券及び株式であり、満期保有目的及び長期保有目的で保有しております。これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されております。

買掛金は、商品の仕入先に対する営業債務であります。これは、流動性リスクに晒されております。

長期借入金は、金融機関からの借入期間が1年以上の金融債務であります。リース債務は、リース会社等とのリース契約に基づく金融債務であります。これらは、流動性リスク及び変動金利の取引については金利の変動リスクに晒されております。なお、一部の変動金利の借入については、金利スワップ取引を行うことにより当該変動リスクを回避しております。

デリバティブ取引は、金利スワップ取引、通貨オプション取引及び為替予約取引であります。金利スワップ取引は、借入金利等の将来の金利市場における利率上昇による変動リスクを回避する目的で利用しております。通貨オプション取引は、複合金融商品に内包され定期預金の利回り向上を目的として利用しております。為替予約取引は、輸入取引に係る為替変動リスクを回避する目的で利用しております。なお、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っております。当社のヘッジ会計に関する方針については、前述「重要な会計方針」の「6ヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスクの管理

売掛金及び敷金保証金に関しては、販売管理規程に基づき、与信限度額設定、与信情報管理、問題債権への対応を行っております。

預金の預け先、有価証券の発行体、デリバティブ取引の引受先に関しては、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理を行っております。

市場リスクの管理

()金利リスクの管理

経理部において金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、定期的に取り締役に報告を行っております。

()為替リスクの管理

外貨建て商品仕入の予定に基づき、市場動向等を勘案して為替予約を行うことなどで、為替リスクのヘッジを行っております。

()価格変動リスクの管理

投資有価証券の市場価格については、市場価格の推移、発行体の信用情報を監視しており、その内容は定期的に取り締役に報告を行っております。

()流動性リスクの管理

売掛金の回収日、買掛金の支払日、借入金の返済日等について把握し、その予定日に基づいて資金計画を策定し実行することで、流動性リスクを管理しております。

()デリバティブ取引

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに従い行っております。また、経過については定期的に取り締役に報告を行っております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。(注)2 参照)

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	5,366	5,366	-
(2) 売掛金	414	414	-
(3) 預け金	1,574	1,574	-
(4) 投資有価証券	257	258	1
満期保有目的の債券	100	101	1
其他有価証券	157	157	-
(5) 敷金及び保証金	5,726	4,944	781
資産計	13,339	12,559	780
(1) 買掛金	6,482	6,482	-
(2) 1年内返済予定長期借入金	2,644	2,644	-
(3) リース債務(流動)	669	669	-
(4) 未払金	509	509	-
(5) 未払法人税等	1,245	1,245	-
(6) 長期借入金	5,178	5,111	66
(7) リース債務(固定)	2,157	2,065	91
負債計	18,887	18,729	158
デリバティブ取引()	(0)	(0)	-

() デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、() で表示しております。

(注)1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

現金及び預金、並びに売掛金、預け金

これらは短期間に決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関から提示された価格によっております。なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」をご参照ください。

敷金及び保証金

各契約ごとに、その将来キャッシュ・フローを国債等の利回り等適切な指標の利率で割り引いた現在時価に、信用リスクを加味したものを時価としております。

負債

買掛金、1年内返済予定長期借入金、リース債務(流動)、未払金及び未払法人税等

これらは短期間に決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利の借入金のうち、金利スワップの特例処理の対象とされている借入については、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。

リース債務(固定)

リース債務の時価については、元利金の合計額を新規のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照ください。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	貸借対照表計上額 (百万円)
非上場株式	3

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4) 投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

(注) 3 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年内	1年超5年内	5年超10年内	10年超
現金及び預金	5,366	-	-	-
売掛金	414	-	-	-
投資有価証券 満期保有目的の債券 社債	-	-	100	-
合計	5,782	-	100	-

(注) 4 長期借入金及びリース債務の返済予定額

(単位：百万円)

	1年内	1年超5年内	5年超10年内	10年超
長期借入金	2,644	5,178	-	-
リース債務	669	1,292	350	514
合計	3,313	6,470	350	514

(追加情報)

当事業年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

当事業年度（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については、短期的な預金取引に限定し、資金調達については、信用力の高い金融機関からの借入に限定しております。当社の事業目的に則り立案された設備投資計画に基づき、必要としている資金を適切に調達しております。デリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わないこととしております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

現金及び預金は、現金、流動性預金及び1年内に満期の来る定期性預金であります。預金は、預け入れ先の金融機関の信用リスクに晒されております。

売掛金はF C契約先及び卸売先に関する営業債権であります。敷金及び保証金は、主に直営店舗の賃借取引に係る敷金及び差入保証金であります。これらは、取引先の債務不履行によってもたらされる信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に債券及び株式であり、満期保有目的及び長期保有目的で保有しております。これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されております。

買掛金は、商品の仕入先に対する営業債務であります。これは、流動性リスクに晒されております。

長期借入金は、金融機関からの借入期間が1年以上の金融債務であります。リース債務は、リース会社等とのリース契約に基づく金融債務であります。これらは、流動性リスク及び変動金利の取引については金利の変動リスクに晒されております。なお、一部の変動金利の借入については、金利スワップ取引を行うことにより当該変動リスクを回避しております。

デリバティブ取引は、金利スワップ取引及び為替予約取引であります。金利スワップ取引は、借入金利等の将来の金利市場における利率上昇による変動リスクを回避する目的で利用しております。為替予約取引は、輸入取引に係る為替変動リスクを回避する目的で利用しております。なお、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っております。当社のヘッジ会計に関する方針については、前述「重要な会計方針」の「6 ヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスクの管理

売掛金及び敷金保証金に関しては、販売管理規程に基づき、与信限度額設定、与信情報管理、問題債権への対応を行っております。

預金の預け先、有価証券の発行体、デリバティブ取引の引受先に関しては、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理を行っております。

市場リスクの管理

()金利リスクの管理

経理部において金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、定期的に取り締役に報告を行っております。

()為替リスクの管理

外貨建て商品仕入の予定に基づき、市場動向等を勘案して為替予約を行うことなどで、為替リスクのヘッジを行っております。

()価格変動リスクの管理

投資有価証券の市場価格については、市場価格の推移、発行体の信用情報を監視しており、その内容は定期的に取り締役に報告を行っております。

()流動性リスクの管理

売掛金の回収日、買掛金の支払日、借入金の返済日等について把握し、その予定日に基づいて資金計画を策定し実行することで、流動性リスクを管理しております。

()デリバティブ取引

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに従い行っております。また、経過については定期的に取り締役に報告を行っております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。(注)2 参照)

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	8,231	8,231	
(2) 売掛金	407	407	
(3) 預け金	1,801	1,801	
(4) 投資有価証券	232	233	1
満期保有目的の債券	100	101	1
其他有価証券	132	132	
(5) 敷金及び保証金	6,042	5,269	772
資産計	16,714	15,944	770
(1) 買掛金	7,312	7,312	
(2) 1年内返済予定長期借入金	2,588	2,588	
(3) リース債務(流動)	787	787	
(4) 未払金	560	560	
(5) 未払法人税等	1,469	1,469	
(6) 長期借入金	4,615	4,542	72
(7) リース債務(固定)	2,680	2,616	63
負債計	20,014	19,878	135

(注)1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

現金及び預金、並びに売掛金、預け金

これらは短期間に決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関から提示された価格によっております。なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」をご参照ください。

敷金及び保証金

各契約ごとに、その将来キャッシュ・フローを国債等の利回り等適切な指標の利率で割り引いた現在時価に、信用リスクを加味したものを時価としております。

負債

買掛金、1年内返済予定長期借入金、リース債務(流動)、未払金及び未払法人税等

これらは短期間に決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利の借入のうち、金利スワップの特例処理の対象とされている借入については、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。

リース債務(固定)

リース債務の時価については、元利金の合計額を新規のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照ください。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	貸借対照表計上額 (百万円)
非上場株式	3

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4) 投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

(注) 3 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年内	1年超5年内	5年超10年内	10年超
現金及び預金	8,231			
売掛金	407			
預け金	1,801			
投資有価証券 満期保有目的の債券 社債			100	
敷金及び保証金()	110	376	286	97
合計	10,550	376	386	97

() 敷金及び保証金については、償還予定が確定しているもののみ記載しており、償還期日を明確に把握できないもの(5,244百万円)については、償還予定額には含めておりません。

(注) 4 長期借入金及びリース債務の返済予定額

(単位：百万円)

	1年内	1年超5年内	5年超10年内	10年超
長期借入金	2,588	4,615		
リース債務	787	1,812	428	439
合計	3,376	6,427	428	439

(有価証券関係)

前事業年度(平成22年3月31日現在)

1. 満期目的保有の債券

	種類	貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
時価が貸借対照表計上額 を超えるもの	(1) 国債・地方債等	100	101	1
	(2) 社債			
	(3) その他			
	小計	100	101	1
時価が貸借対照表計上額 を超えないもの	(1) 国債・地方債等			
	(2) 社債			
	(3) その他			
	小計			
合計		100	101	1

2. その他有価証券

	種類	貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	33	27	5
	(2) 債券			
	(3) その他			
	小計	33	27	5
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	123	144	20
	(2) 債券			
	(3) その他			
	小計	123	144	20
合計		157	171	14

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

非上場株式(貸借対照表計上額3百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 減損処理を行った有価証券

当事業年度において、有価証券について53百万円(その他有価証券の株式53百万円)減損処理を行っておりません。

なお、当該有価証券の減損処理に当たっては、時価が取得原価の50%以下に下落したときに、減損処理を行っております。また、時価の下落率が取得原価の30%以上50%未満であるときは、時価の推移及び発行体の財政状態等を勘案して、減損処理を行っております。

当事業年度（平成23年3月31日現在）

1. 満期目的保有の債券

	種類	貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
時価が貸借対照表計上額 を超えるもの	(1) 国債・地方債等	100	101	1
	(2) 社債			
	(3) その他			
	小計	100	101	1
時価が貸借対照表計上額 を超えないもの	(1) 国債・地方債等			
	(2) 社債			
	(3) その他			
	小計			
合計		100	101	1

2 その他有価証券

	種類	貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式			
	(2) 債券			
	(3) その他			
	小計			
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	132	145	13
	(2) 債券			
	(3) その他			
	小計	132	145	13
合計		132	145	13

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

非上場株式(貸借対照表計上額3百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3 減損処理を行った有価証券

当事業年度において、有価証券について26百万円(その他有価証券の株式26百万円)減損処理を行っておりません。

なお、当該有価証券の減損処理に当たっては、時価が取得原価の50%以下に下落したときに、減損処理を行っております。また、時価の下落率が取得原価の30%以上50%未満であるときは、時価の推移及び発行体の財政状態等を勘案して、減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

前事業年度(平成22年3月31日)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

区分	種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外 の取引	通貨オプション取引 売建 米ドル	50		0	0

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

ヘッジ会計 の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等の うち1年超 (百万円)	うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定 支払	長期借入金	62	20	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当事業年度(平成23年3月31日)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

ヘッジ会計 の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等の うち1年超 (百万円)	うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定 支払	長期借入金	20		(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)																		
<p>1 採用している退職給付制度の概要 当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を採用しております。</p>	<p>1 採用している退職給付制度の概要 当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を採用していましたが、平成22年 4月より退職一時金制度の一部を確定給付企業年金制度へ移行しております。</p>																		
<p>2 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">233百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">233百万円</td> </tr> </table>	退職給付債務	233百万円	退職給付引当金	233百万円	<p>2 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">(1)退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">285百万円</td> </tr> <tr> <td>(2)年金資産</td> <td style="text-align: right;">55百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>(3)未積立退職給付債務 (1)+(2)</td> <td style="text-align: right;">229百万円</td> </tr> <tr> <td>(4)未認識数理計算上の差異</td> <td style="text-align: right;">12百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>(5)退職給付引当金 (3)+(4)</td> <td style="text-align: right;">217百万円</td> </tr> </table>	(1)退職給付債務	285百万円	(2)年金資産	55百万円	<hr/>		(3)未積立退職給付債務 (1)+(2)	229百万円	(4)未認識数理計算上の差異	12百万円	<hr/>		(5)退職給付引当金 (3)+(4)	217百万円
退職給付債務	233百万円																		
退職給付引当金	233百万円																		
(1)退職給付債務	285百万円																		
(2)年金資産	55百万円																		
<hr/>																			
(3)未積立退職給付債務 (1)+(2)	229百万円																		
(4)未認識数理計算上の差異	12百万円																		
<hr/>																			
(5)退職給付引当金 (3)+(4)	217百万円																		
<p>3 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">勤務費用</td> <td style="text-align: right;">19百万円</td> </tr> <tr> <td>特定退職金共済掛金等</td> <td style="text-align: right;">12百万円</td> </tr> <tr> <td>簡便法から原則法への変更に伴う 費用処理額</td> <td style="text-align: right;">152百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">184百万円</td> </tr> </table> <p>当事業年度に退職給付債務の計算方法を簡便法から原則法へ変更したことに伴い、期末時点での簡便法と原則法による退職給付債務の差額を特別損失として一括費用処理しております。</p>	勤務費用	19百万円	特定退職金共済掛金等	12百万円	簡便法から原則法への変更に伴う 費用処理額	152百万円	<hr/>		計	184百万円	<p>3 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">(1)勤務費用</td> <td style="text-align: right;">41百万円</td> </tr> <tr> <td>(2)利息費用</td> <td style="text-align: right;">4百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>退職給付費用 (1)+(2)</td> <td style="text-align: right;">45百万円</td> </tr> </table>	(1)勤務費用	41百万円	(2)利息費用	4百万円	<hr/>		退職給付費用 (1)+(2)	45百万円
勤務費用	19百万円																		
特定退職金共済掛金等	12百万円																		
簡便法から原則法への変更に伴う 費用処理額	152百万円																		
<hr/>																			
計	184百万円																		
(1)勤務費用	41百万円																		
(2)利息費用	4百万円																		
<hr/>																			
退職給付費用 (1)+(2)	45百万円																		
<p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%;">退職給付見込額の期間配 分方法</td> <td style="width: 40%; text-align: center;">期間定額基準</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td>割引率</td> <td style="text-align: center;">2.0%</td> <td></td> </tr> </table>	退職給付見込額の期間配 分方法	期間定額基準		割引率	2.0%		<p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%;">退職給付見込額の期間配 分方法</td> <td style="width: 40%; text-align: center;">期間定額基準</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td>割引率</td> <td style="text-align: center;">2.0%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>期待運用収益率</td> <td style="text-align: center;">2.5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の処理 年数</td> <td style="text-align: center;">5年(定額法により翌事業 年度から費用処理すること としております。)</td> <td></td> </tr> </table>	退職給付見込額の期間配 分方法	期間定額基準		割引率	2.0%		期待運用収益率	2.5%		数理計算上の差異の処理 年数	5年(定額法により翌事業 年度から費用処理すること としております。)	
退職給付見込額の期間配 分方法	期間定額基準																		
割引率	2.0%																		
退職給付見込額の期間配 分方法	期間定額基準																		
割引率	2.0%																		
期待運用収益率	2.5%																		
数理計算上の差異の処理 年数	5年(定額法により翌事業 年度から費用処理すること としております。)																		

(ストック・オプション等関係)

前事業年度(自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)																																																																														
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">96百万円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">54百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">78百万円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">92百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">96百万円</td></tr> <tr><td>たな卸資産</td><td style="text-align: right;">37百万円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">107百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">81百万円</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">645百万円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">171百万円</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">474百万円</td></tr> </table> <p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">39.8%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金算入されない項目</td><td style="text-align: right;">0.1%</td></tr> <tr><td>住民税均等割額</td><td style="text-align: right;">8.2%</td></tr> <tr><td>評価性引当額の減少</td><td style="text-align: right;">1.5%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0.5%</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">50.1%</td></tr> </table>	未払事業税	96百万円	貸倒引当金	54百万円	賞与引当金	78百万円	退職給付引当金	92百万円	役員退職慰労引当金	96百万円	たな卸資産	37百万円	減損損失	107百万円	その他	81百万円	繰延税金資産小計	645百万円	評価性引当額	171百万円	繰延税金資産合計	474百万円	法定実効税率	39.8%	(調整)		交際費等永久に損金算入されない項目	0.1%	住民税均等割額	8.2%	評価性引当額の減少	1.5%	その他	0.5%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	50.1%	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">112百万円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">38百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">115百万円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">86百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">103百万円</td></tr> <tr><td>たな卸資産</td><td style="text-align: right;">27百万円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">116百万円</td></tr> <tr><td>資産除去債務</td><td style="text-align: right;">290百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">106百万円</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">997百万円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">174百万円</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">822百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物(資産除去債務)</td><td style="text-align: right;">112百万円</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">112百万円</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">710百万円</td></tr> </table> <p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">39.8%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金算入されない項目</td><td style="text-align: right;">0.1%</td></tr> <tr><td>住民税均等割額</td><td style="text-align: right;">5.8%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0.5%</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">46.2%</td></tr> </table>	未払事業税	112百万円	貸倒引当金	38百万円	賞与引当金	115百万円	退職給付引当金	86百万円	役員退職慰労引当金	103百万円	たな卸資産	27百万円	減損損失	116百万円	資産除去債務	290百万円	その他	106百万円	繰延税金資産小計	997百万円	評価性引当額	174百万円	繰延税金資産合計	822百万円	建物(資産除去債務)	112百万円	繰延税金負債合計	112百万円	繰延税金資産の純額	710百万円	法定実効税率	39.8%	(調整)		交際費等永久に損金算入されない項目	0.1%	住民税均等割額	5.8%	その他	0.5%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	46.2%
未払事業税	96百万円																																																																														
貸倒引当金	54百万円																																																																														
賞与引当金	78百万円																																																																														
退職給付引当金	92百万円																																																																														
役員退職慰労引当金	96百万円																																																																														
たな卸資産	37百万円																																																																														
減損損失	107百万円																																																																														
その他	81百万円																																																																														
繰延税金資産小計	645百万円																																																																														
評価性引当額	171百万円																																																																														
繰延税金資産合計	474百万円																																																																														
法定実効税率	39.8%																																																																														
(調整)																																																																															
交際費等永久に損金算入されない項目	0.1%																																																																														
住民税均等割額	8.2%																																																																														
評価性引当額の減少	1.5%																																																																														
その他	0.5%																																																																														
税効果会計適用後の法人税等の負担率	50.1%																																																																														
未払事業税	112百万円																																																																														
貸倒引当金	38百万円																																																																														
賞与引当金	115百万円																																																																														
退職給付引当金	86百万円																																																																														
役員退職慰労引当金	103百万円																																																																														
たな卸資産	27百万円																																																																														
減損損失	116百万円																																																																														
資産除去債務	290百万円																																																																														
その他	106百万円																																																																														
繰延税金資産小計	997百万円																																																																														
評価性引当額	174百万円																																																																														
繰延税金資産合計	822百万円																																																																														
建物(資産除去債務)	112百万円																																																																														
繰延税金負債合計	112百万円																																																																														
繰延税金資産の純額	710百万円																																																																														
法定実効税率	39.8%																																																																														
(調整)																																																																															
交際費等永久に損金算入されない項目	0.1%																																																																														
住民税均等割額	5.8%																																																																														
その他	0.5%																																																																														
税効果会計適用後の法人税等の負担率	46.2%																																																																														

(持分法損益等)

前事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

持分法を適用した場合の投資損益等につきましては、関連会社がないため、記載を省略しております。

当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

持分法を適用した場合の投資損益等につきましては、関連会社がないため、記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

当事業年度末(平成23年3月31日)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

店舗等の不動産貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を使用開始から15年と見積り、割引率は2.0%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高(注)	673百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	54百万円
時の経過による調整額	13百万円
資産除去債務の履行による減少額	20百万円
その他増減額(は減少)	9百万円
期末残高	<u>730百万円</u>

(注) 当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

(賃貸等不動産関係)

前事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

[次へ](#)

(企業結合等関係)

前事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

当社は、100円ショップ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

売上高の10%を超える顧客が存在しないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

当社は、100円ショップ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(追加情報)

当事業年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

【関連当事者情報】

前事業年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

項目	前事業年度 （自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）	当事業年度 （自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）
1株当たり純資産額	143,560円14銭	171,595円16銭
1株当たり当期純利益金額	19,711円75銭	30,576円48銭
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	同左

（注）1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 （自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）	当事業年度 （自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）
当期純利益	1,494百万円	2,318百万円
普通株主に帰属しない金額	百万円	百万円
普通株式に係る当期純利益	1,494百万円	2,318百万円
普通株式の期中平均株式数	75,840株	75,840株

（重要な後発事象）

前事業年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有価証券	(株)大垣共立銀行	54
		(株)ヤマナカ	33
		カネ美食品(株)	18
		(株)三菱東京UFJ銀行	15
		(株)滋賀銀行	10
		(株)ユタカファーマシー	3
		福野商業開発(株)	0
計		317,527	135

【債券】

投資有価証券	満期保有目的の債券	銘柄	券面総額(百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
		野村ホールディングス(株)第1回期限前 償還条項付無担保社債(劣後特約付)	100	100
計		100	100	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	7,847	1,905	229 (118)	9,523	6,241	979	3,281
構築物	313	18	3 (2)	329	172	21	156
車両運搬具	30	13	13	30	14	3	15
工具、器具及び備 品	1,483	33	628	888	745	98	142
土地	949	29		979			979
リース資産	3,787	1,362	291	4,858	1,535	775	3,323
建設仮勘定	0	1,227	1,224	3			3
有形固定資産計	14,412	4,590	2,390 (120)	16,612	8,709	1,877	7,902
無形固定資産							
意匠権	48			48	27	5	21
ソフトウェア	992	58	51	998	683	142	315
電話加入権	22			22			22
リース資産	25		20	4	3	6	1
その他	22			22	11	2	11
無形固定資産計	1,111	58	72	1,097	726	157	371
長期前払費用	433	72	2	502	150	36	352
繰延資産							
繰延資産計							

(注) 1 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

 建物 出店等に係る建物の取得 1,232百万円
 資産除去債務会計基準の適用に伴う増加額 672百万円
 リース資産(有形固定資産) 店舗設備及び什器等 597百万円
 新POSシステム 759百万円
 建設仮勘定 出店に係る有形固定資産の取得 1,227百万円

2 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

 建物 退店による除却 111百万円
 工具、器具及び備品 旧POSシステムの除却 614百万円

3 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金				
1年以内に返済予定の長期借入金	2,644	2,588	0.83	
1年以内に返済予定のリース債務	669	787	0.99	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	5,178	4,615	0.80	平成24年4月～ 平成28年3月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	2,157	2,680	1.39	平成24年4月～ 平成35年3月
其他有利子負債				
合計	10,650	10,671		

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年以内における返済予定額は、以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	2,001	1,495	847	270
リース債務	637	517	387	270

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	188	22	49	34	127
賞与引当金	196	290	196		290
役員退職慰労引当金	244	16	1		260
災害損失引当金		50			50

(注) 貸倒引当金の当期減少額のうち、洗替による戻入24百万円及び債権回収による戻入9百万円あります。

【資産除去債務明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
不動産貸借契約に基づくもの		751	20	730

(注) 当期増加額には、適用初年度の期首における既存資産の帳簿価額に含まれる除去費用を含んでおります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

a 資産の部

イ 現金及び預金

区分		金額(百万円)
現金		470
預金の種類	当座預金	5,609
	普通預金	1,267
	定期預金	740
	その他預金	145
計		7,761
合計		8,231

ロ 売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株) マナ・ティー	77
(株) メイクマン	28
丸高商事(株)	23
はるやま商事(株)	13
ゴリラドリームズ(株)	12
その他	251
合計	407

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	次期繰越高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	(A) + (D)
					2
					(B)
					365
414	4,929	4,937	407	92.4	30.4

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

ハ 商品及び製品

区分	金額(百万円)
雑貨	8,941
菓子食品	320
その他	107
合計	9,369

二 敷金及び保証金

区分	金額(百万円)
大和リース(株)	318
イオンリテール(株)	228
コーナン商事(株)	221
大和情報サービス(株)	208
ユニー(株)	155
その他	4,909
合計	6,042

b 負債の部

イ 買掛金

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
エコー金属(株)	380
レック(株)	330
サンノート(株)	286
協和紙工(株)	267
薦田紙工業(株)	255
その他	5,791
合計	7,312

(3) 【その他】

当事業年度における四半期情報

	第1四半期 自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	第2四半期 自平成22年7月1日 至平成22年9月30日	第3四半期 自平成22年10月1日 至平成22年12月31日	第4四半期 自平成23年1月1日 至平成23年3月31日
売上高(百万円)	20,295	19,556	22,598	20,937
税引前四半期純利益金額 (百万円)	733	837	1,847	889
四半期純利益金額 (百万円)	376	439	1,047	454
1株当たり 四半期純利益金額(円)	4,970.66	5,798.14	13,814.23	5,993.44

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
単元株式数	
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	該当事項はありません。 該当事項はありません。 該当事項はありません。 該当事項はありません。
公告掲載方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 電子公告掲載アドレス http://www.seria-group.com
株主に対する特典	該当事項はありません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書
事業年度（第23期）（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）平成22年6月25日東海財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類
平成22年6月25日東海財務局長に提出
- (3) 四半期報告書及び確認書
（第24期第1四半期）（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）平成22年8月13日東海財務局長に提出
（第24期第2四半期）（自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）平成22年11月15日東海財務局長に提出
（第24期第3四半期）（自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日）平成23年2月14日東海財務局長に提出
- (4) 臨時報告書
平成22年8月6日東海財務局長に提出
金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号（財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月25日

株式会社セリア
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松岡正明 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木晴久 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社セリアの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第23期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社セリアの平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社セリアの平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社セリアが平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年6月29日

株式会社セリア
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松岡正明 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木晴久 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社セリアの平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第24期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社セリアの平成23年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

会計処理方法の変更に記載されているとおり、会社は当事業年度より「資産除去債務に関する会計基準」及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」を適用している。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社セリアの平成23年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社セリアが平成23年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。